

## 第1節 東日本大震災における子どもに関する状況

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらした。被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は2012（平成24）年3月11日までに15,786人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している人は15,786人で、そのうち0～9歳は466人、10～19歳は419人となっている。

震災により親を亡くした児童については、震災孤児241人（岩手県94名、宮城県126名、福島県21名）、震災遺児1,372人（岩手県481名、宮城県749名、福島県142名）の確認が行われている（2012（平成24）年3月28日現在）。

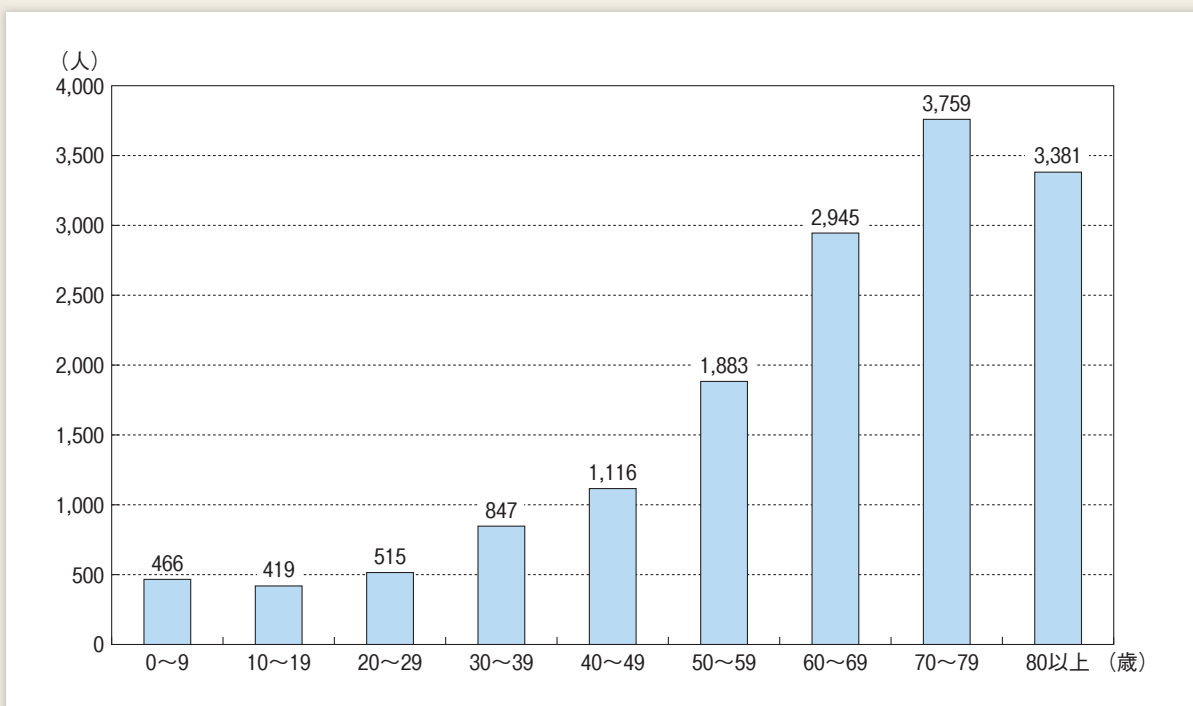
さらに、被害の甚大な3県（岩手県、宮城県、福島県）等被災地の学校から受け入れた幼児児童生徒数は、25,751人となっており、学校種別の内訳は、幼稚園4,466人、小学校14,071人、中学校4,760人、高等学校2,307人、

中等教育学校10人、特別支援学校137人（小学部・中学部・高等部（幼稚部での受入れはなし）となっている（2011年9月1日現在。国公立計。同一都道府県内の学校からの受入れ数を含む。）。25,751人のうち、岩手県、宮城県、福島県の幼児児童生徒で、他の都道府県の学校において受け入れた数は、13,933人となっており、出身県別の内訳は、岩手県313人、宮城県1,702人、福島県11,918人となっている（2011年9月1日現在。国公立計）。

加えて、物的被害<sup>2</sup>を受けたのは、幼稚園が941か所、保育所等（認可外保育施設を含む）が1,590か所、小学校が3,269か所、中学校が1,700か所、中等教育学校が7か所、特別支援学校が186か所となっている（幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校については2012年3月31日現在。保育所については2011年10月1日現在）。

- 1 2012年4月時点の東日本大震災の被災地等における子ども・子育てに関する対応を中心に記載するものである。
- 2 幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校における主な被害状況は、校舎や体育館の倒壊や半焼、津波による流出、水没、浸水、地盤沈下、校庭の段差や亀裂、外壁・天井の落下、外壁亀裂、ガラス破損などである。保育所等における被害状況は、全壊47か所、半壊58か所、その他1,485か所。

## 第2-5-1図 東日本大震災における年齢階級別死亡者数



資料：警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について【23.3.11～24.3.11】」より  
※検視等を終えて年齢が判明している者を集計